

## 編集後記

平成28年度の『人間社会学部紀要』は、4学科でカリキュラムの刷新や新コースの導入への移行もあり、学科の特徴が反映されたものとなった。引き続き、平成29年度もこのような発展のプロセスにあることと思われるが、本学部教員の研究フィールドの多様性を学部紀要は示している。引き続き、研究・教育に邁進することを学部教員に期待すると同時に、ご多忙の中、ご投稿くださった先生がた、編集担当の先生がたに感謝申し上げます。(志摩)

心理学科からは、今号へ論文1本の投稿があり、厳正な査読を経て掲載の運びとなった。執筆者、査読者の先生方に御礼申し上げます。心理学科では、本年度の新しい企画として、3年生対象の研修学寮におけるキャリアデベロップメントの特別授業を、社会人メンターへのインタビューを含む業界研究の成果発表会に変更した。さらに、秋桜祭に合わせて「心理学科ホームカミングデー」を実施し、卒業生との交流の強化を図った。また、昨年度からの「先輩に聞こう！心理学を活かした働き方」と「心理学科心理専門職ガイダンス」も継続して実施し、キャリア支援の強化を図っている。一方、昨年度に成立した公認心理師法を受けて、公認心理師の資格取得に対応するカリキュラムが本年度末に明らかになる予定であり、心理学科としての新しい方向性を打ち出すことが求められている。(島谷)

福祉社会学科からは今号へ3本投稿を頂いた。まず執筆者・査読者の先生方に篤く御礼申し上げます次第である。南野論文は移住外国人女性の子育てに関する困難をテーマに、「外国人」であること以上に日本社会の中でのジェンダーや貧困の問題が影響を与えていることを明らかにした。李論文は、韓国における地域包括ケアシステム構築におけるA市の長期療養センターの取り組みを紹介し、個別支援だけでなく地域福祉推進のための基盤づくりを担う姿を描写している。中土論文は生活困窮者自立支援制度について、その課題と、そこで果たすべきソーシャルワーカーの役割について整理をしたものである。それぞれの論文が、生活課題を抱える人々をまえに、どのように実践を展開するか、問題を把握するか、というアクチュアリティの高い論となっており、福祉社会の在り方を考えるうえで学生の学習にも参考になるものであろう。(吉田)

現代教養学科では教員たちの専門分野が多様であることもあり、学内各研究所や国内外の学会で活躍してきた研究者が多い。2016年度より本学科に若手の教員がさらに増えてきたため、それぞれの分野での研究成果が今後さらに発信されていくであろう。実際、それが今号の『学苑』にも反映されている。今号に現代教養学科からは、学科の専門教育や学科が力を入れている科目、または、学科が受け持っている大学の教育内容を示す研究として、近年、急激に普及してきたソーシャルメディアの選択の要因を明にした考察、英文による英語教育についての研究、図書館職員養成のための図書館学教育科目に関する調査などの成果が掲載された。執筆者・査読者の先生方に御礼を申し上げます。今後はさらに多様な研究成果が発表されていくことを期待したい。(フフバートル)

初等教育学科からは、残念ながら今号への寄稿がなく、学生の卒業論文題目一覧掲載のみとなった。現在、初等教育学科では平成31年度新課程の開始に向けて、小学校・幼稚園教員養成の再課程認定を受ける準備に入っている。教員養成の理念、カリキュラムなどを学科設立当初の基本方針に照らして確認しながら、次代の学校教育を担う教員養成のための新たな視点を加え、具体化する作業を進めている。(木間)

編集委員 島谷まき子・フフバートル・吉田光爾・木間英子

☆掲載論文の無断転載を禁じます。

発行所	昭和女子大学
〒154-8533	近代文化研究所
東京都世田谷区太子堂	
一ノ七ノ五七	
電話	03(三四一)五三〇〇
学苑	九百十六号
定価	八六四円(本体八〇〇円)
購読料	一カ年分 一〇三六八円
	(本体 九六〇〇円)
印刷	平成二十九年一月二十日 印刷
所	平成二十九年二月一日 発行
三	秀
舎	孝